新しい時代 新文化運動と哲学

現世人間の起源と未来

3.血の作用と心の変化

前号に続いて霊肉一体論に関する科学 的、医学的、そして経典的根拠を探って見よ う。我々人間の体は心と密接な関係を持っ ている。その体を構成している血は生命の 源であり、生命と細胞を作る根本になって いる。又、人間の体は、その血の作用によって 心の変化も起きるし、心の変化によって血 液や体の変化も起きるメカニズムに成って いる。

当に、血は生命である。だから、血が腐る ことは生命が腐ることになる。慾心を出せ ば心が腐るというのは、慾心が生命を腐ら す毒素だということである。聖書ヤコブの 手紙1章15節にも次のように書いてあ る。「欲望がはらんで罪を生み、罪が熟して死 を生み出す。」

心の作用はその血の作用である。だから、 血液型により性格が異なり、感情により血 色が変わってくる。この簡単な事実からし て人間の心は血によって成り立っているこ とがわかるのである。われわれの先祖たち の東洋医学的な用語によると、血を循環さ れている心臓を血袋とはいわず、心の袋を 意味する心臓と呼んでいる。これは、先祖た ちがそれとなく血の作用が即、心の作用で ある事実を感じていたからこそ、そのよう な名称をつけたのであった。同じく英語で る。

4. 心は生命の根源

このように、血は生命の源泉であると共 に心の源素でもある。心と生命は同じ存在 であるのに別々の名をつけただけである。 生きているということは心が存在している

ことを意味する。

聖書には生命自体が心であると記録され ている。聖書の箴言書4章23節を見れば、 「何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命 の源がある」と書いてある。心自体が生命で あり、生命自体が心であることが理解でき る。また、聖書的にいえば、生命は即ち言葉 であり、言葉は神の神霊であるから、"生命、 即、霊"であると、聖書には記録しているので ある。ヨハネによる福音書1章1節以下に ある文章を見れば、「万物は神ので創造され た、、、万物と人間の内に神があった。神は光 であった。」と言うように記されている。つま り、光は神の御言であり、聖霊だといってい るのである。光は霊であり、光は生命である から、生命が霊であり、霊が生命であること を聖書は具体的に記録してある。従って、血 は生命であり、生命は心であるから、「血の作 用は心の作用である」と論じた勝利者、神人 類の新しい御言葉は聖書的にも、また、科学 的にも間違いのない事実であることが立証 されたのである。

神人類の説法講論によれば、死人には 生命がない、生命がないから心もない。肉体 が死ねば血が死んだことで、即ち生命が死 んだのであるから死んだ人には思考がな く、思考がないから霊もないのである。従っ て、死んだ人は天国に昇りたくても昇れな もHeartは心であり同時に心臓を意味してい いし、神になろうとしても神になれないの である。なぜならば、神は死んだ人の神では なく、生きた人の神だからである。聖書にも 霊肉分離説ではなく、明白に霊肉一体論が 記録されている。しかし今日、聖書を信じる という人たちは霊肉を分離して考えてお り、死んだあと霊魂が天国や地獄に行くも のだと思っている。このような誤った信仰 がどこから生まれたのか?死んだ人は天国 にいくことはできない。天国はここにあっ たり、あそこにあったりするものではなく、 あなたがたの心の中にあると言っているの だから、死んだ人の中には天国が存在する 心自体がないのである。

死んだ人には生命が存在しない。生命が ないから心も全くない。死んだナザロは天 国に行き、死んだ富者は地獄に行ったなど の話は聖書を理解していない者達の作り話 である。いままで多くの人たちが誤った神 観と救済論をもっていたので、聖書をよく 理解せず間違って教えているのである。

元来、聖書的伝統をみると、聖書は心と生 命を同一のものと見なしたし、死んだ人の 来世を認めてもいなかった。聖書でいうと ころの生命とは、即ち血であり、血がなけれ ば生命もないとしている。生命である血が なければ考えることができず、考えがなけ ればその心もないのだ。これは科学的にも 全く妥当である。貧血が起き、しばらくして 脳に血の供給ができなくなったら意識も断 たれてしまうのである。意識が止まった人 には心がなく、わずか一分間だけでも気絶 してから醒めても、その間の記憶は完全に 断絶しているのであろう。

特に, 死んで土中に埋められた死体には 心があるはずがない。血が既に腐っている から考えがあるはずもなく、考えがないか ら心もなく、血が腐ったから肉も骨も腐っ て崩れ去ってしまうのである。だから墓地 の中には霊魂はない。暗い共同墓地で白っ ぽい幽霊を見るのは、そこの鬼神の姿を見 るのではなく、こちらから(鬼神を見た人)の 怖がる心の反映に過ぎないのだ。

従って、生命の中にこそ精神があり、生き ている人だから霊魂もあるのである。聖書 は次のようにハッキリ釘を打っている。"神 は死んだ者の神ではなく、生きている者の

임인년에 하도(河圖)를 세워 십승대도를 증거하면

갑진년에 천하 만민을 구제하고 화합하는 원년(元年)이 되리라

神なのだ"(ルカによる福音書20章38節) 更に神は死者とは何の関係もなく、ひたす ら生者とのみ関係があると言っている。な ぜならば、神は人間の心の中におられるか らである。コリント人への第一の手紙3章 16節によれば、「あなたがたは神の宮であ って、神の御霊が自分のうちに宿っている ことを知らないのか」と反問している。

霊肉一体論を纏めて言うならば、人間の 肉体は血で形成されており、血の作用が心 の作用であるので身体は即、血の塊であり、 更に心霊の形相でもある。故に、心霊と肉体 が一体だという結論に至るのである。結論 から見通じて見ると、人間であれば誰でも 一体の人間であって、身体が別にあって、心 がまた別にあるという人間はいないのだ。 心霊現象は生命の作用であり、肉体は生命 の形体であるだけである。聖書でも次の如 く立証している。

「主よ、憐れんで下さい、私は苦しんでい ます。目も、魂も、はらわたも苦悩ゆえに衰え いていきます。」(詩篇31章9節~10)こ の聖句からみると、旧約聖書の全編に流れ る思想は、心の作用が肉体と霊魂を直接に 動かし、結局、肉体と霊魂は分離することの できない一体のものだという信仰で展開さ れていることがわかる。

方便の教えと真理の道

1. 学問の完成は神人合一

宗教とは何なのか?

宗教が人間に大きな意味を持つのは何 のためであろうか? これは、生きている 生命体としての人間が最も原初的に願って いる願望を宗教がかなえてくれるという期

待があるからである。その願望とは、"永遠な る生命"の保証であり、その永遠なる世界を 実現せんとする期待が、時空の輪内で有限 な聖に断絶してしまう一回的な限界を克服 して、究極的には時空を超越した永遠なる 生命を得ようとして、人間は本能的に宗教 という独特な形態を創りあげてきたのであ

だが、いまだに、このような願望を充足し てくれた宗教は存在しなかった。人類の歴 史上、大小の人間社会の中で無数の宗教が、 それなりの理想世界に対し華麗な青写真を 描いてきたが、漠然とした指標だけを示し たのみで、実際にそのような世界を実現し てくれた宗教はないのだ。死後、来世で良い 暮らしができるとか、数千年後に世の中が 良くなるとかの、方便的仮説による宗教と 期待の宗教があっただけで、今、現在、人間の 生を根本から建て直して、生きているこの 地上に天国を建設した宗教は一つもない。 いままで真の真理の正道と宗教は存在した ことがないのである。

しからば、いままでの多くの方便的教え に基ついた宗教らが、かれらの理想世界を 具体的に実践し得なかったわけは何か? その根本的原因は、かれらが憧憬している 永遠なる神の世界がどこにあるのか、その 所在を知らなかったがためである。その所 在をしらないので、その所在にいたる道と 方法を探せなかったのだ。かれらが探し迷 っていた永遠なる世界が、実は、彼ら自身の なかにあるという厳然たる事実、その世界 を憧憬している人間自身に対し、明確な洞 察がなかったのである。

霊的奴隷の子として生まれ、自分は奴隷 であるしかないと思っているものがいたと したら、かれを奴隷に閉じこめているもの は何か? かれを所有している主人だろう

か? 違う、自らが奴隷だと思っている自 身の意識なのである。そこで、本当にかれを 奴隷から開放することができるのは主人の 寛容ではなく、かれ自身が自由に向かう意 識の革命であるだろう。

人間は永遠な神の付属物なのか? 神と 人間は永遠に越えることのできない死の河 を隔てた異質的な存在なのか? 人間はい つも神の足許で神から慈悲と恩顧を物乞い する低劣な存在だというのか?

答えは否である。神は人間の対象ではな く人間自身が正に神なのだ。人間自体が神 的存在であることを忘覚して知らなかっ た。しかし、人間の欲望と慾心を起す「オノ レ」という主体意識は仮の悪霊の魂であ る。"自我"の意識の庫になっていて悟れない だけであって、実は人間自身の本来の姿が 即ち聖なる神なのである。現在、自分の"自 我"意識、それが悪霊の魂をして今の人間を 奴隷人間にした奴隷意識なのである。その 奴隷意識から脱しない限り人間の自由はあ り得ないのだ。それは奴隷意識というより も、人間の窮極的な"苦"の原因である。すべ ての宗教はそのような苦痛の原因子を"悪 魔"という名で形象化してきた。だとすれば、 己という"自我"意識が柾に悪魔になるのだ。 この悪魔が神の世界を二分し、人間と神を 拷問させて、永い歳月を桎梏と苦痛の中で 迷わせてきた元凶であるのだ。われわれは、 このような事実を正しく直視しなければな らず、単純に頭だけの理解ではなく体験と して自覚しなければならない。このような 事実の自覚こそは人間を"自我という意識" の束縛から解放させる宇宙的な大革命の始 まりであり、天地開闢の始まりでもある。"す べての悲しみと痛みを脱したあと永遠に喜 ばれん"という歌のように。*

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

人口有土安心處 인구유토안심처요

好運所謂 호운소위이름이라

非運 비운이면 狼狽 낭패오니

無渡漢水三入之亂 무도한수삼입지란 十勝之地避亂處 십승지지피란처로 三數論삼수론을 磨鍊마련하니

次の号に引き続き掲載

격암유록 新 해설 제113회

末中運 말중은

來日내일모레두고봐라 天地反覆運來 천지반복은래하면 善惡兩端 선악양단되는날에 何意謨하의모로 堪當 감당할고 天神下降終末日 천신하강종말일에 岩隙彷徨 암극방황네로구나 張氏唱義北先變 장씨창의북선변에 白眉作亂三國鼎峙 백미작란삼국정치 五卯一乞末版運 오묘일걸말판운에 卯辰之年運發 묘진지년운발하리 漢陽之末張氏亂後 한양지말장씨란후 金水火之三姓國 금수화지삼성국을 太白山下三姓後 태백산하삼성후에 鄭氏奪合鷄龍 정씨탈합계룡일세

운이 와서 선악(善惡)을 양쪽으로 갈라 심 판할 때 무슨 수로 감당할꼬? 종말의 그 날 천신이 하강할 때 바위 틈새에서 방황 하는 자가 바로 너로구나. 장씨가 먼저 북 장을 펴는 서양의 종교는 물러가느니라. 쪽에서 와서 변란을 일으키고 백미장군이 난을 지음에 삼국이 대치하느니라. 윷놀 이에서 오묘일걸(五卯一乞)로 넉동이 단 동으로 나서 판을 끝내듯이 계묘, 갑진의 운이 드러나면 모든 상황이 단번에 뒤바 는 원년(元年)이 되느니라. 뀌리라. 이씨(李氏)가 한양(漢陽)에 도읍 을 정한 시대의 말기에(이씨조선은 임신 년에서 을사년까지 28대 574년이다.) 장씨 를 둘러싼 정치적 혼란이 있은 후에 태백 산 즉 우리나라에서 유불선을 나라의 큰

가르침으로 번갈아 받들며 왔으나 후일

青龍黃道大開年 청룡황도대개년이 王氣浮來太乙船 왕기부래태을선을 靑槐滿庭之月 청괴만정지월이요 白楊無芽之日 백양무아지일이라 靑龍之歲利在弓弓 청룡지세이재궁궁 白馬之月利在乙乙 백마지월이재을을 黑虎證河圖立 흑호증하도립이면

靑龍濟和元年 청룡제화원년이라

정도령이 유불선 삼도를 하나로 통합하여

지상선국을 세우게 되느니라.

갑진년에 십승대도가 크게 열리리니 태 을선(太乙船=감로해인을 실은 구원선)을 내일모레 두고 봐라. 천지가 뒤집히는 타고 왕중왕(王中王)의 기운이 떠오르나 니 동방 땅 해우반도(한국)에서 출현한 정 도령의 불사영생의 진리가 온 천하에 알 려지며 반면에 '죽은 후에 천당 간다'는 주 갑진년 경오월, 이로움이 궁을 십승 정도 령에게 있느니라. 임인년에 하도(河圖)를 세워 십승대도를 증거하게 되면 갑진년에 는 천하 만민을 구제하고 만국이 화합하

> 無窮辰巳好運 무궁진사호운으로 三日兵火萬國統合 삼일병화만국통합 四十五宮春秋壽 시십오궁춘추수는 億萬年之經過 억만년지경과로서



死之征服永生者 사지정복영생자는 脱劫重生修道者 탈겁중생수도자라 忠信義士入金城 충신의사입금성에 眞珠門 진주문이 玲瓏 영롱일세 蓬萊水溢吉地 봉래수일길지라고 長沙之谷淸水山下 장사지곡청수산하 蓮花坮上千年歳 연화대상천년세에 穀種三豊 곡종삼풍알리로다 好運호운이면 適合적합이요 非運비운이면 不幸불행이라 隨時多變 수시다변되오리니 絶對預定 절대예정될수없네

진사(辰巳=갑진 을사)에 호운을 맞게 되나니 정도령은 무궁한 조화의 권능인 있는 감로해인을 임의 용지 하시어 삼일 (三日)만에 병화(兵火)를 진압하시고 만국 을 통합하느니라. 사십오궁의 세월은 억 만년을 지나왔으나 죽음을 정복하고 영생

을 얻은 자는 탈겁중생(脫劫重生)한 수도 자(인간의 탈을 벗고 하나님으로 거듭난 자)이니라. 충신과 의로운 선비들이 들어 가는 금성(金城=천당 극락)은 그 문이 진 주로 장식되어 영롱하게 빛나며 봉래산 의 영원한 생명수가 넘쳐흐르는 길지이니 라. 거기에는 긴 모래의 골짜기(장사지곡 長沙之谷=소사역곡) 사이로 생명수가 흐 르는 삼신산 아래의 연화대에서 천년수를 누리며 사는 하늘나라 참인간 종자들이 감로해인을 먹으며 살아가느니라. 호운 (好運)이면 꼭 그렇게 맞을 것이요 호운이 아니면 불행이라 그때그때마다 많은 변화 가 있을 것이니 절대 예정될 수 없네.

兩虎三八大開之運 양호삼팔대개지운 淸兵三萬再入亂 청병삼만재입란에 黑雲滿天呼哭聲中 흑운만천호곡성중

(庚寅)년에 북이 남침하니 첫 번째는 낙동 강을 건너 부산 앞까지 쳐내려오니 부산 (釜山=八金山)이 피란지가 되며 두 번째 는 청병(중공군) 삼십만이 다시 개입하니 온 하늘이 먹구름으로 뒤덮이고 울부짖는 소리가 들리는 가운데 서로 짖밟혀 죽으 니 참으로 가련하구나. 이때에는 금강을 넘지는 못하니 방안에 가만히 앉아 있는 것이 안심처가 되리라.*

삼팔선이 크게 열리는 운이 오니 경인

박명하 /고서연구가 myunghpark23@naver.com 010-3912-5953

당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다 전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

승리신문

1990.3.3 등록번호 다 - 0029

발행인 겸 편집인 김종만

본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람몸이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.

경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37

先渡洛東初入之亂 선도락동초입지란

無渡錦江再入之亂 무도금강재입지란

八金山下避亂地 팔금산하피란지로

우 14679 홈페이지 www.victor.or.kr



광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202

본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다